

令和 7 年度 第 1 回  
東京都地域活動に関する検討会  
速 記 録

令和 7 年 7 月 2 日（水）

東京都庁第二本庁舎 3 1 階 特別会議室 2 7

午後 1 時28分開会

○地域活動推進課長 定刻より若干早いのですが、ただいまから東京都地域活動に関する検討会を開催させていただきます。

私は、事務局を務めさせていただきます東京都生活文化局都民生活部地域活動推進課長の沼倉でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の検討会ですが、お手元の資料 1「東京都地域活動に関する検討会設置要綱」に基づき設置されておりまして、検討会設置要綱第 8 により、本検討会は公開とさせていただいております。御異論なければ、検討会の議事録も公表させていただくことを御了承をお願いいたします。

なお、3 月に開催いたしました本検討会の議事録につきましては、東京都のホームページにて公表させていただいておりますので、後ほど御覧いただければと思います。

それでは、ここから検討会設置要綱第 5 第 2 項により、本検討会の座長を務めます生活文化局都民生活部長の柏原が進行させていただきます。よろしくお願いいたします。

○座長 検討会の座長を務めさせていただきます生活文化局都民生活部長の柏原でございます。いつもお世話になっております。

本日は、お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ここから座って御挨拶させていただきます。

この会は、東京都が、東京の抱える様々な課題を解決するために、各町会・自治会連合会の皆様方と、行政区域を超えて、都の行政課題ですとか、皆様方で取り組まれている事項等を共有するとともに意見交換を行う場ということで重要と考え、平成29年 3 月に設置したものでございます。

本日も、ぜひ忌憚のない、活発な意見交換をしていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、配付資料につきまして事務局から確認をさせていただきます。

○地域活動推進課長 それでは、資料の確認をさせていただきます。配付資料は、資料 1「東京都地域活動に関する検討会設置要綱」、資料 2「東京都地域活動に関する検討会委員名簿」、資料 3「座席表」資料 4「事前アンケート集計結果」、こちらは先日お願いいたしましたアンケートを集計したものになります。以上 4 点となりますが、不備等ございましたら、恐縮ですが、挙手をお願いいたします。資料については大丈夫でしょうか。

御確認、ありがとうございました。

また、本日は、座席に設置しておりますマイクを使用いたしますので、御発言いただく際には、目の前にございますボタンを押して、マイクの赤い光を確認いただいた上で御発言いただき、終わりましたら再度押していただきますよう、よろしくお願いいたします。  
また、今回、随行の事務局の方が御発言いただく際には東京都の事務局のほうハンドマイクをお持ちしますので、よろしくお願いいたします。

○座長 次に、新任の委員の方についてでございます。今年3月の令和6年度第3回検討会からその後12名の委員の方が交代をされておられます。本来でございましたらお一人お一人から自己紹介をしていただくところではございますが、時間の都合もございますので、お手元の資料2「委員名簿」に※印をつけさせていただいている方々が新たに委員になられた方でございます。この表示をもって代えさせていただきます。御了承願います。

本日は、この資料2にございます委員の方のうち御欠席の方は、1番の千代田区の方、2番の中央区の方、8番の江東区の方、16番の豊島区の方、29番の調布市の方、31番の福生市の方、33番の多摩市の方、34番の稲城市の方、37番の奥多摩町の方、39番の都町連、以上10名の委員の方々が欠席になっております。

それでは、ここから本日の次第に入らせていただきます。本日の議題でございますが、「他の地域の団体や組織との連携について」でございます。

先ほども御説明しましたが、事前にアンケートをお願いいたしまして御回答いただいているものをベースに進めてまいりたいと思っております。

町会・自治会の取組、催物につきましては、町会・自治会の皆様だけではなくて、様々な地域の団体、例えばPTA、子供会、あるいは消防関係とか、多くの組織の方々と連携して実施されていることが増えているというふうに私どもも認識をしているところでございます。

そこで、本日は、このような地域にございます様々な他の団体や組織との連携をさらに進めていくという見方に立ちまして、連合組織または加入されている町会・自治会の皆様の状況や取組例などについて意見交換をしていただければと思っているところでございます。

それでは、事務局からお願いいたします。

○地域活動推進課長 それでは、事務局からアンケートの結果等について御案内をさせていただければと思います。お手元の資料4「事前アンケート集計結果」をめくりながらお話を聞いていただければと思います。

まず、第1の「他の団体や組織との連携の有無」を御質問させていただきましたところ、38の連合会から御回答いただきました。27件の連合会では、他の組織や団体との連携があると御回答いただきました。一方で、11の団体からは、そのような連携はないという御回答をいただいております。

次のページをおめくりください。2の「連携している団体・組織」でございます。これは各連合会の皆様からいただいた御回答を五月雨式に全部挙げさせていただいた中身なので、一つ一つ御紹介はできないのですが、後で眺めていただければというふうに思っております。こちらのものを確認しましたところ、商店街、商工会ですとか商店関係、NPO法人や市民団体、社会福祉協議会、小中学校や高校、大学、専門学校、また、小中学校などのPTAの関係との連携が多いという御回答をいただいております。加えまして、警察署や消防署などの行政機関、地域のスポーツクラブ、少年野球ですとか、そのような地域のスポーツ団体、地元の企業—具体的には郵便局、金融機関、スーパーなどとの連携の取組があるという御回答をいただいております。また、寺社、寺院などとの連携事例もあるということ。最近多いのが福祉関係の施設、福祉施設との連携もありますという御回答もいただいております。地域の様々な団体とつながりながら地域活動を進めていただいている証左かなとこちらのほうでは思っております。

この中で1つ特徴的な事例がありまして、特定の地域のエリアマネジメントを目的とした一般社団法人と連携された事例を御報告いただいております。新宿区さん、御回答いただいているのですが、具体的にどのような事例なのか御説明いただければと思うのですが、よろしく願いできますでしょうか。

○新宿区 新宿区です。新宿区が挙げた事例として、西新宿の再開発に伴うまちびらきイベントを町会と、先ほどお話に出てきました一般社団法人エリアマネジメント会社と協力して実施した事例を挙げさせていただきます。

このエリアマネジメント会社というのは、再開発区域のマンションの居住者、あとは商業ビルに入居する事業者などが一体となってエリアマネジメントを行うために設立された一般社団法人です。この社団法人と地元町会が一緒になりまして、再開発に伴って完成した提供公園のオープニングを祝うとともに、公園を造った再開発の計画に込めた思いを住民に伝えて広く知ってもらう。あとは、新旧住民の交流、つながりを創出する目的でイベントを開いたという事例がございます。

具体的には、フードの出店、アロマクラフトなどのワークショップの体験イベント、縁

日ですとか多種多様なブースを設けて地域住民の交流を図ったということです。当日の様子としては、多くの親子連れや高齢者、若者といった多くの世代が集まって常に盛況な状況だったというふうに聞いております。

工夫した点としては、イベントを昼・夜の2部制にして内容を変えて、公園の昼と夜のコントラストを強調するなど工夫をして実施したと聞いております。

あと、少し話がそれてしまうのですが、今私が話したような事例を新宿区の町会関連のホームページ、区町連のシンジュクイレブンというホームページがございます。こちらでインターネットで公開しております。いろいろな地域の取組事例を載せておりますので、もしよろしければ御覧になっていただければと思います。

簡単ではございますが、以上です。

○地域活動推進課長　新宿区さん、ありがとうございました。今、新宿区さんからは、再開発をされた地域で取り組まれた、その地域全体のまちづくりなどに関わるようなエリアマネジメントの一般社団法人との取組事例を御発言いただきました。近年、再開発なども都内各所で行われていまして、従来、地域として町会があって、そこが再開発されて地域の中にマンションが建つみたいところで、新しい住民の方との交流という点で様々なイベントなどの実施を工夫されてやったというお話をいただきました。新たなつながりづくりという意味でも非常に参考になる事例なのかなと思いました。

私もちょっと調べたところ、60年ぐらい歴史のある町会さんの一部のエリアを再開発して、一部、大型マンションが建設された地域ということで、昔からの住民の方と、マンション住民の方が接点を持って交流するような取組をやられたということで、ほかの地域も含めて非常に御参考になるようなことかなと思いました。御説明、ありがとうございました。

ほかに何か、連携先の団体とか組織に関して、こういうところはうちの地域は特徴がありますというお話とかあればお聞かせいただけますでしょうか。後ほど具体的な活動については、ほかの区市の皆様からお話をいただこうかと思っているのですが、団体とか組織という意味で特徴がありますというお話がもしあればお聞かせいただこうかと思うんですけれども、何かございますか。

では、続けて、活動関係の取組の中身について話を進めさせていただければと思います。次の5ページを御覧いただければと思います。「連携して実施している取組み」で、様々な実施されていらっしゃる活動について挙げていただきました。何個かに大別してタイト

ルをつけさせていただいているのですけれども、まず一番多かったのが「地域のお祭りや交流イベント」などで連携されていますというお話をいただいております。お祭りの関係の手伝い、様々な参加者ですとか、いろいろなところで地域の団体と連携をしながら進めているというお話をいただいております。1点目の再開発の関係は、先ほど御説明いただいた内容を具体的に書かせていただいた中身になっております。2点目以降の出店の手伝いについて、消防団、商店街、ボーイスカウト、NPO法人に依頼しましたなど、お祭りに関しては、地域の学校とか児童館、法人会、ビル管理会社、青少年対策地区委員会、企業ですとか学生団体など、本当に様々なところと一緒に取り組んでいらっしゃることをいろいろな連合会の皆様から御回答いただいております。

また、中段下のほうにありますけれども、地元小中学校のPTAやボランティアの児童生徒と連携して7町会連合の運動会を行ったという事例がありました。イベントについて、協賛企業に入っていて、参加者へのギフト、参加賞などを提供してもらっている事例ですとか、地元商店街と祭りなどのイベントを行った事例、また、デジタルスタンプラリー、ご当地クイズなど商店街と一緒にやってやった取組などがあったというお話でした。

「防災活動」に関しては、防災訓練の指導、子育て世帯を対象にした応急救護訓練などを行った事例ですとか、地域の観光協会、病院、土建組合、法人会などと連携して防災訓練を行った事例、また、様々な防災活動に関しては、警察、消防団、母の会、防火防災協会と連携しましたというお話ですとか、各小中学校と防災訓練のところに一般社団法人と連携をしてやった事例、一番多いのは地域の消防署としっかり連携しながら防災について取り組んでいただいているということが事例としては挙がっております。

「防犯活動」に関しては、警察や協力防犯協会などと連携した啓発活動などを行っているというお話でした。

「子ども・若者育成」に関しては、中学生と地域課題に関しての総合学習で取組を行ったというようなお話をいただいております。こちらは大田区さんの事例になるのですけれども、大田区さんから具体的なお話について御説明いただければと思うんですが、お願いできますでしょうか。

では、事務局の方、よろしくお願いいたします。

○大田区 大田区役所地域力推進課の中村と申します。よろしくお願いいたします。

大田区自治会連合会は18地区の連合会で構成されているのですが、そのうちの1地区、鵜の木地区町会連合会の取組について紹介させていただきます。

大森第七中学校の中学生と地域課題解決に向けた総合学習、これについては主に大学と地元中学校と連携した事例となっております。鵜の木地区町会連合会では、昨年10月から11月にかけて大森第七中学校の1年生約200名を対象に、鵜の木地区の健康課題解決に向けた総合学習授業を行い、最終日には6クラスの代表グループが体育館で保護者や地域の方向けに提案内容を発表いたしました。

この総合学習が始まったきっかけとしましては、大田区役所健康政策部が東邦大学医学部と連携して実施した、人生100年を見据えた健康寿命延伸プロジェクトのモデル事業に鵜の木地区が選ばれたこととなります。本モデル事業では、令和4年度から5年度にかけて、鵜の木地区の商店街や公園などの地域資源を生かした健康クイズラリーを行い、そこで町会連合会は積極的に協力、参加いたしました。

鵜の木地区のモデル事業は令和5年度に一旦終了となるのですが、令和6年度からはこの町会連合会が主体となって、新たに若い世代をメインターゲットとして、幅広い世代の方、団体とのつながりをつくっていくことを目指して地元中学校と連携いたしました。この連携によって東邦大学医学部客員講師による、鵜の木地区の健康データを見て健康課題を発見する授業、そして鵜の木地区の連合会長による地区の特徴や魅力の紹介を踏まえて、中学生が地域資源を生かした健康イベントを提案する総合学習が始まりました。

昨年度は、全36の提案がありまして、その提案の中から今年度は「井わたしの鵜の木自慢Instagram写真投稿イベント」を5月から開始しまして、10月の連合運動会では、鵜の木地区で健康診断イベントを中学生と一緒にやる準備を進めているところです。健康診断イベントを実施するに当たりましては、地元町会の理学療法関係の方から御協力いただける御縁にも恵まれたと聞いております。

連携してよかった点としましては、東邦大学医学部客員講師との連携によって専門的な知見が得られたということです。健康に関するデータの見方から問題解決の手法に至るまで教えてもらうことができたということです。また、地元中学校との連携により、学校を起点とした地域づくりを行うことができました。子供が主役の事業を行うことで、町会の加入・未加入を問わず、PTA、保護者や、近年増え続けるマンション住民を地域イベントに巻き込むことができました。

ただし、課題といたしましては、授業の枠をいただく必要があるなど、学校の協力が不可欠であること。また、中学校から今回いただいた提案をいかにして地域の中で今後も実践し続けていくかということが挙がっております。

○地域活動推進課長 大田区さん、ありがとうございました。今御説明をいただいた地域の健康づくりというのは、地域住民の皆さんの関心が非常に高いものなのかなと思っております。その取組は、区の事業が最初だというお話でしたけれども、それに対して町会のほうが御協力されて、その後にまた中学校との連携などが広がっていったというお話です。このように何かをテーマにして地域の学校とか区などとも連携しながら取組を進めていくというのも、ほかの地域でもこういう取組は広がっていくのかなと思っております。大田区さん、御説明、ありがとうございました。

そのほかに、子供と保護者の居場所づくりの事業ですとか、多摩川の河川敷で、これだと地域はある程度特定されますけれども、公園などで野鳥観察を行うような体験会や、中学校の生徒の皆さんとニュースポーツなどの取組をやったり、保育園などともアトラクション出演などで連携したというお話をいただいております。

「高齢者等の見守り活動」に関しても、特別養護老人ホームと協定を結んで避難訓練を行ったり、見守りなどを行っているケースとか、高齢者ふれあいフェスタなどを開催して連携して取組をやっているという話もいただいております。

「加入促進」につきましては、東京都宅地建物取引業協会、全日本不動産協会などとも協定を結んで、不動産の売買・賃貸契約の仲介時に区内転入者への加入案内をしているケースもあるようです。町内会加入促進のための協定を町内会・自治会連合会、宅建協会、不動産協会、市と結ばれていて、各協会加盟店舗での住宅の販売や賃貸等の契約時に町内会・自治会の加入希望書とか加入促進のチラシを配布しているような事例がございました。こちらは町田市取組のようですが、町田市さんから具体の話をお聞かせいただければと思うんですが、お願いできますでしょうか。

○町田市 具体的には事務局のほうから回答させていただきます。

○町田市 事務局の町田市市民協働推進課の小林と申します。よろしくお願いいたします。

今御紹介のありました協定について、町田市では、町内会・自治会連合会と宅建協会、不動産協会と町田市で町内会加入促進のための協定を2018年11月に結んでおります。内容としましては、各協会加盟店舗での住宅の販売や賃貸等の契約時に町内会・自治会の加入希望書、加入促進チラシを配布していただいております。きっかけとしては、やはり町内会への加入促進を強めていきたいというところがございます。

連携してよかった点ですが、新たな地に引っ越されたタイミングというのは、町内会・自治会を知っていただいて加入いただくチャンスだと捉えており、住宅の購入や転居の際

に町内会加入の案内を届けることができることがメリットです。今後とも積極的に加入のお声がけができればと考えております。

○地域活動推進課長 町田市さん、ありがとうございます。やはり加入いただくタイミングとして、新しく引っ越された方にどうやって町会を知っていただいて入っていただくのか、非常に大事なのかなと思っております。

不動産関係の協会と連携してという取組についてはほかでもあるかと思うんですが、うちでもやっていますという区さんや市さんはありますか。いろいろ調べてみますと、区や市の条例ですとか、何か協定の中で不動産協会と取組を進めるみたいなものを書かれているような例もあって、やっていたらしゃるような事例はほかでもあるのかなと思いました。町田市さんが御紹介いただきましたチラシとか、そういうものを転入された方に渡して入っていただくきっかけをつくるという意味では非常に有益な取組というふうに思っております。加入をしてもらうということは結構ハードルが高くて難しいことだと思いますので、その取組についてやっていたいているのかなと。

お願いします。

○練馬区 練馬区の事務局をしております小板橋と申します。

今の町田市様の内容とかなり酷似している部分はございますが、練馬区でも町会・自治会連合会と宅建協会さん、全日本不動産協会さん、それから練馬区ということで4者での協定を結ばせていただいております。この内容につきましてはほぼ町田市様と同じで、転入時に不動産の店舗に来ていただいた方に対する御紹介、もしくは、実際に物件を見ているときに、「ところで、町会はどうなっているのか」という御質問を不動産事業者の方も聞かれて困るような状況が多々あったそうでしたので、そういったことも踏まえて、事前にお問合せがあった際には、そこの地域の町会・自治会の御紹介、こういった方が会長さんをやっていらして、御連絡先としてはここでお尋ねいただけるようにと、そういったところまで御案内させていただいているものになります。

本当に新しく転入してきて右も左も分からない方たちに、地域はこんなところですよ、こういった町会長さんがこんな活動をしていますよというところまで、なかなか全てはお知らせいただけない部分はありますけれども、そのような形で転入されてくる皆様に御紹介させていただいて、入ってくる方も、また御紹介する不動産業者の方も、地域に根差した活動をやっている自治会さんを御紹介するようなチラシ、それからパンフレット、そういったものを御用意して周知というか、御案内いただけるような形です。これから実際に

はもっとお互いどういふことができるのか、双方にとっていいものになっていくように話し合いをしながら進めていこうかという今の状況でございます。

○地域活動推進課長 練馬区さん、ありがとうございました。転居前のところでは町会・自治会に入っていたんだけど、次の転居先で入るきっかけをなくしてしまって入らなかったとか、あるのかどうか分からないので入らなくなりましたみたいなケースもあるとお聞きしているので、やはり転入されたタイミングで不動産関係のところで接点を持っていたことは有益かと思いました。あと、最近、個人情報関係で、引っ越してきた方を町会の皆さんが把握するのは結構難しくなっているのかなと思います。以前でしたら、引っ越されてきたら、あそこの家を今建てているし、引っ越しがあるよという話で会長さんとか町会の役員の皆さんのところに情報が来て、「じゃ、ちょっと声をかけてみようかな」ということをされていた事例もあったようですけれども、最近なかなかそこが難しくなっているみたいなこともお聞きしていますので、地域の住民の方と非常に密接にやっぴゃる不動産関係の方と連携しながらこのような加入促進の取組を続けていただいているのは非常に意味があるかなと思います。練馬区さん、ありがとうございました。町田市さんもうありがとうございました。

続きまして、「清掃活動」についても取り組んでいらっぴゃるところもありました。オアシス挨拶、一斉清掃クリーンアップディ、挨拶の運動もしっかりと町会を中心にやっぴゃいただいたり、学校と連携して一斉清掃と挨拶運動をやっぴゃいますような事例、地区内のクリーン作戦に協力したり共催していますとか、美しい〇〇市をつくる会という取組の中に市と町会・自治会、学校、企業などと連携して年2回程度の清掃活動を実施したというお話をいただいております。やはり町会・自治会の活動がしっかり行われていることの一つの現れとして、地域がきれいだとおっぴゃっている方が結構多いですね。地道な活動ですけれども、例えば道端に花を植えたり、清掃活動を定期的にやられたり、そういうことをやっぴゃっている町会・自治会の地域というのは美化が保たれていて、しっかりコミュニティ活動、地域活動が行われているところは意外に地価が高いんですと不動産業界の方がおっぴゃっていたことが印象的でした。

そのほかに「デジタル化」では、町会DX・デジタル化、広報の強化などをやっぴゃいただいております。

「その他」としましては、明るい選挙推進委員会、区市町村の健康政策課と健康体操の実演、健康に関する啓発活動などをやられているということです。また、民間企業、個

人商店の方と連携して、自治会連合会に加盟している自治会員にごきんじょカードを配布して、協力店でカードを提示すると各種サービスを利用できるという話もございます。先ほどのデジタルスタンプラリーとご当地クイズをやっていますというお話と併せて、このあたりについて昭島市さんからお話を具体的にお聞きできればと思うんですが、お願いできますでしょうか。

○昭島市 昭島市の高橋です。デジタルスタンプラリーについてですが、最初は紙のスタンプラリーを考えていました。しかし、人手が足りない中でうまく運営するのは難しいと判断したため、約2年検討し、掲示板や自治会館などに二次元コードを掲示し、市内のスポットを巡る形式で実施することとなりました。具体的には、スポットに行き二次元コードを読み込むと、地域の魅力が発見できるような、その地域に関連したクイズが出題されるので、そのクイズに答えてスタンプを獲得し、抽選で景品が当たるというものです。楽しくみんなで参加できる形にできたのが良かったと思います。

最初は自治会の会員だけで開催の予定でしたが、連合会の役員に商工会のメンバーがいたので声をかけ、商工会と一緒に事業を実施することとなりました。また、商工会で景品を準備してくれることになりました。

デジタル化に関しては、高齢者から参加が難しいとのお声もいただきましたが、お孫さんと一緒に楽しむ企画として説明し納得していただきました。

課題として、マンション内の自治会では自治会の敷地内に会員以外が入ることへの懸念や、どこに二次元コードを掲示するか等多くありましたが、盛況に終わりました。今年も10月1日から1カ月半実施する予定です。

出だしは課題が多いですが、このまちは楽しいということを地域の人たちにアピールしていかなければいけないと思うので、継続して取り組んでいきたいと思います。

それに加えて、昭島市での自治会では「ごきんじょ（互近助）カード」という会員特典のカードを、1世帯1枚ずつ配布しています。これは、地域の商店に協力店となってもらい、協力店にカードを持っていくと特典が受けられるものです。加盟してくださった商店を一覧にまとめた冊子も作成し、お得に地域を楽しめるようにしています。

近年ではネットショッピングが普及したため、地域の商店での買い物が減っていますが、一緒にまちを盛り上げていくには日頃からのお付き合いが重要であるという思いから、この取り組みを続けています。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。まさに商店街の皆さんと一緒にやって地

域の魅力を向上させる取組でした。

このごきんじょカードに関連しましては、今回、事前をお願いをしていなかったのですが、立川市さんも絆カードという取組をやっていたらよかったかと思うんです。もしよろしければ、西手会長、絆カードはどんな効果があるか、どんな取組だったかお話しいただければと思うんです。急ですみません。お願いしても大丈夫でしょうか。

○立川市 立川でも絆カードといって、地元の商店街でサービスをしていただく。例えば金額を、10%安くするとか5%安くするとか、こういうようなサービス内容のパンフレットを作って会員になっている方の全世帯にお配りして、絆カードを1世帯1枚。今年は世帯に1枚プラスもう1枚ずつお配りする、そんな試みもしておりまして、件数としては150件ぐらいの商店街が絆カードのサービス内容に入っているということになります。

今、昭島からごきんじょカードというのがありましたけれども、最初に立川がやって、それで昭島がそれを参考にして作ったということなんですよ。

○昭島市 はっきりとはわかりませんが、昭島市では、平成27年頃にNHKの放送で山村防災アドバイザーによる提案があったことがきっかけで、この取り組みを始めたとは私は認識していました。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。町会に入ったメリットを感じられないと住民の方がおっしゃるケースは最近増えている中で、今御説明いただいた立川市さんと昭島市さんの商店街の方、地域の商店と連携して、加入していますよというカードを示すことによって割引が受けられたり特典が受けられるということは、まさに入っている住民の方が具体的な特典というか、メリットを感じられるという意味では非常に有益な取組というふうに思っています。

ただ、その過程の中でいろいろ御苦勞もされたというお話も一部ありましたけれども、協力いただける商店街とどうやって連携していくのかということも大事ですし、町会・自治会と同じように商店街のほうも担い手の方が少なくなっていったり、役員の方も高齢化しているとか取組がなかなか難しくなっているというお話もいただいているので、どうやってお互いの地域の魅力の向上ですとか魅力の発信に向けて連携していくのかというところも結構大事なお話なのかなと思います。

事例についてお話しいただきまして、ありがとうございました。

そのほかに何かこういうような取組を連携してやっていますとか、もしお話しただけ

そうでありましたら挙手いただきたいんですけども、何かございますか。

○府中市 府中市から来ました山岡と申します。新任なのに僭越ですけども、お話しさせていただきます。

この連携というアンケートの中でどういうふうに書いたらいいか分からないので、連携はしていませんとやったんですけど、実際はいろいろしております。その中で1つ御紹介したいのは、東京都の助成金を使いましてドローンを数台買いました。約250グラムですから免許も要るわけですけども、これはかなり優秀なお利口さんです。これを使おうとしたんですけども、幾つか理由がありました。1つは、府中は多摩川に近いんですね。そして、台風19号でもって洪水になりまして、避難したけれども、避難所がいっぱいで入れなかったと。大変だったんですけど、幸い死傷者は出なかったんですけども、そんな経験がございます。

それから、防災情報というものに関して、今までは住民から二次元ですよ。電話でもって消防に知らせる。三次元で持っていったらどうか。上空からドローンでもって写真を撮って、それを何らかの形で。私どもが今やっているのは、QRコードを使ってYouTubeにそれを入れましてやろうということで、実は最近、府中の消防署長さんとも直談判しまして、協力しよう、連携しようよということで乗っていただいたんですね。若い消防署長さんだったので私どもの話していることをよく理解できまして、とにかく試しでやってみよう。多分どこもやっていないことだろうということで、協定まではいきませんけれども、これから進めていこうということになりました。

要は、情報を三次元という形で、地域の災害時、上空から見てどういうものかということ消防署の中にあるパソコンに映し出す。そういうテストはいたしましたけれども、平常時ですからちゃんと映ります。落ち着いてできたんですけども、災害のときはどうかというのがこれからの課題でございます。

実は私、ヨーロッパにたびたび行くんですけども、フランスでは、御存じのとおり、災害が起きたとき、火事なんか起きたときまず出るのが、消防署じゃなくて、ドローンなんです。ドローンが上から見て行って、どこの消防署がどこへ行ったらいいかというのを上から見れば一目瞭然と。道路が混んでいる混んでいないが分かる。そんなことがございますので、多分、府中の署長さんもそういうことを知っていたんじゃないかなと思うんですけども、とにかくやってみようということで始めました。

ここでお話ししたいのは、やっぱり人がいないんですよ。250グラムのドローンです

と免許が要ります。免許を持ってやれるということと当然若い人になります。思い切って募集したんです。自治会員でなくてもいい。誰でもいいけれども、こういうことをやりたいので手を挙げてくださいといったら、かなり応募してくれました。その中の半分ぐらいは自治会に入っておりません。半分は自治会の人だったんですけれども、その中から何人か選んで、今、毎週、私有地でもって練習しております。そんな形で、若い人を入れる一つの方法としては新しいことをやる。

この前やったのは、デジタルでどうしたらいいかということで若い人を入れました。同じように応募したら人が来てくれました。半分のうちの何人かは自治会に入っていました。そういうことで、一つのきっかけではございますけれども、若い人に魅力が見えるようなことをやると反応があるなということを経験したといいますか、実感したことがございます。今後も続けていきたいと思います。

ありがとうございました。

○地域活動推進課長 府中市さん、ありがとうございました。ドローンを活用して若い方にも関心を呼ぶような取組を消防署などと連携してやったというお話でした。

ほかに、どうぞ。

○江戸川区 江戸川の関口です。2つお話をさせていただきたいと思います。

まず、先ほど町会の運動会というお話がございました。私どものほうも10町会とか12町会とか連合で運動会を行います。そのときに、選手入場で入場行進をやるんですね。そのときに、地元の消防団の人たちが制服を着て、最後に30人ぐらいパレードをするんですね。そのことによって、我々の地域は消防団がいざというときは守ってくれるんだという地域住民へのアピールができたということで、消防団の方も大変喜んでいましたし、そのためにわざわざ消防署長がパレードに参加する。地域に安心感を持ってもらえるということで消防団が率先してパレードに参加してもらおう。消防団の存在意義を地域に分かってもらえるということで頑張っています。

もう1つお話しさせていただきますと、よく町会の人たちが、「町会に入って何のメリットがあるの」、「どういうことがあるの」と聞かれます。そこで我々は、先ほどお話がありましたが、令和元年のときに台風19号、大変大きな台風がございました。そのとき、私どもの住む江戸川区始まって以来の避難指示を区長が出しました。利根川が氾濫するんじゃないか。あと何十センチかで利根川が氾濫するんだというようなことがありました。氾濫しなかったのは、群馬県の八ッ場ダムが、完成ではなかったんですが、水のある程度

ためていただいたおかげで利根川は氾濫しなくて済んだということで、我々は今年3月ですか、ハッ場ダムはどういうダムなのかということで見学に行きました。長野原町にも行って町長さんといろいろお話をさせていただきました。

我々がそのとき感じたのは、長野原町で降った雪水、それから長野原町で降った雨、その水が吾妻川を流れて、利根川に出て、栗橋辺りから我々のそばの江戸川に流れてくる。江戸川から金町浄水場で我々の生活用水として利用させてもらっているんだ。我々は目に見えないところの方々の恩恵を受けて生活をしているんだということを町会の人たちに言いました。だから、我々は、町会が何なのといっても、いざというときの自助・共助ということで、共助のときには目に見えない町会・自治会組織という大きな力があって、皆さん方がいざというときは安心して避難できるんだよということを今一生懸命話しています。

令和元年の避難所を我々は運営させていただきました。そのときに避難されてきた方々がまず安心したのは、隣近所の人がいる。知っている町会役員の方々が一生懸命やってくれているということで、我々は避難したけれども、大変心強かったと。そういうような顔の見える関係、そして目に見えないところでの大きな力が皆さん方を守っているんだということをお話しして、感心していました。果たして入ってくれるかどうか分かりません。これから勧誘を一生懸命しますけれども、そういうことで、どこかで誰かが自分たちを支えてくれているんだということを一生懸命これから言っていくつもりです。また、言っています。そういうふうにして町会の勧誘、増強ということで我々は一生懸命やっていますので、皆さん方も、どこかで、目に見えないところでも支えてくれているんだということを町会の方々にも言ったらいいんじゃないかなと思っています。

○地域活動推進課長 江戸川区さん、ありがとうございます。今、会長がおっしゃられたとおり、地域の安心安全につながる活動をまさに町会がやっているんだ。ここに暮らしていて安心できる。災害時とか防犯の活動もそうですね。いつもやっていただいていますけれども、そういう取組を町会がやっていたり、また消防団とも連携しながらいろいろな取組をやっていただいていることがその地域で暮らす方が安心できるという実感につながるかと思いますので、引き続きそういう取組をほかのところでも続けていただければと思っています。ありがとうございます。

ほかは何かございますでしょうか。

なければ、続けさせていただきます。「連携したきっかけ」についてもお話を聞かせていただいております。アンケートで多かったのが、消防団、商店街、PTAなど、御自身

でも会員だった、そこに関わっていたことがきっかけでその団体と連携したということが御回答の中では多く寄せられています。

また、町会・自治会とその団体が共通の目的や課題を持っていたので、そのことから一緒になって取組をやりましたという話もいただいています。防災のこともそうですし、子供の関係の取組ですとか、地域のまちづくり、福祉の関係なども取組の中ではお話をいただいております。加入の関係、役員の高齢化、様々ないろいろな地域課題に関しても、団体と取り組みながら一緒にやっていたという話もいただいています。市域の美化を図って、安全安心な暮らしにつなげる。こういう活動を通じて町会・自治会のコミュニケーションの醸成を図ることは町会・自治会の活動に欠かせない取組だということと、市民として、救急医療体制の連携などもやっていたような話も書いていただいています。先ほど御説明いただいたところですが、デジタルスタンプラリーなどもやっている事例を書いていただいています。

あと、町会・自治会や団体、それぞれ双方から声をかけることによって、つながるきっかけになりましたという話もいただいています。盆踊りとか祭りが多いですかね。あと、運動会なども、片方だけではできなかったものについて、お互いに声をかけ合って連携して取組を進めましたというお話もいただいております。

次のページで、実は都も地域の底力発展事業助成でやっているのですけれども、連携を行えば補助金が増額されるみたいなことも一部の区の助成制度でも取り組みされていらっしゃる。それを使って連携したという話もいただいております。

続きまして、次のページを御覧いただければと思います。連携を続けていただく意味では、連携してよかったという実感を持っていただくことも大事な事かと思っておりますので、そのあたりもお聞かせいただいております。一番多かったのが、若い人に入ってもらって、力仕事について手伝ってもらって非常に助かった、人手不足の解消につながったというお話とかもいただいております。また、企業などと連携して、その資金面などでのバックアップとか、PR活動などにも協力いただいたというお話を書いているケースもありました。やはり一つの町会だけでは大きな規模、広がりのある取組をやるには限界があるので、いろいろな地域の団体と連携してイベントを盛り上げたり、大規模なものにしていったという効果があったことも挙げていただいています。

そのほかにも、防災のところでも多かったんですけれども、協定を締結するとか、災害に向けてしっかりと一緒になって取り組むことも、日頃、日常のところからしっかり取り

組んでいますという話もいただいています。防災に関しての講演をやって、それが防災意識の醸成につながりましたという事例も挙げていただいているところもありました。福祉関係の施設との連携ですとか、大学生のボランティアとの連携で地域の絆が生まれたといういい効果がありましたという話もいただいています。先ほどの繰り返しになりますけれども、町会単独でやるよりも連携することで規模の大きいものができていますということ非常に多くの連合会から御回答いただいています。

次のページをおめくりください。不動産業者からの案内、先ほど御説明いただいた例ですとか、中学校、PTA、消防署、消防団など横の連携の強化ができましたという話もいただいています。市が取り組むごみゼロ社会につながっている実感やコミュニケーションを通じた地域連携が図れていること。また、市における救急体制の速やかな搬送体制の構築に寄与しているということを挙げていただきました。

ごみの問題、美化の問題はほかの地域でもあるかと思うんですけれども、八王子市さんから御回答いただいた事例です。よろしければ八王子市さんから御説明していただければと思うんですけれども、お願いできますでしょうか。

○八王子市 八王子市の秋間でございます。八王子市町会自治会連合会では、行政をはじめ公益財団など28の審議会などへ役員を派遣しております。町会・自治会の立場から意見や御協力などを行っております。

また、他との連携をしてよかった点については、事務局のほうから説明をさせます。事務局、お願いします。

○八王子市 八王子市町会自治会連合会事務局の西田です。

ただいま御紹介いただきましたよい点ですが、ほかの団体の方も既に取り組まれておられるとは思いますが、ごみをなくそう、ごみゼロの社会をつくろう。あわせて、美しいまちをつくろうということで、様々な団体が協議会を立ち上げて取り組んでおります。その中の一つが、平成18年12月に市民と事業者関係、そのほか高齢者団体とか集団回収事業団体とか宅地建物取引業協会、並びに町会・自治会の会長等で構成し市が中心になって動いている推進協議会がありここでは、年に3回会議を行いまして、ごみゼロ社会に向けてどのように取り組んでいくかということで真剣に論議を重ねております。

1つ、八王子ではもったいない運動というのがありまして、その食べ物、もう捨てちゃうのみたいな標語をつくって、キャラクターをつくって各商店街等に貼って、できるだけ食べ残しゼロ、食品ロスをなくそうという取組をしております。あわせて、スーパー等で

商品を取るときには手前から取ってほしいということで、手前どりという名称で取り組んでいます。このような取組が実を結んだのだらうと、町会自治会も併せて住民等に対して食品ロス、ごみをどんどん少なくしようということで運動に参画してまいりました。その結果、八王子は2023年から3年連続だったと思うんですが、1人が1日に排出するごみ量が698グラムで人口50万都市の中では第1位、一番少ないということで評価をいただいたことが弾みになっております。

あわせて、美しい八王子をつくる会というのは、市民団体と事業者等できれいな八王子をつくっていきましょうということで、自主的に市の所管窓口に協力いただきまして、年に2回、春にはみんなの町の清掃デー、秋にはみんなの川と町の清掃デーということで、このときは朝9時ぐらいから一斉に住民が自分たちの地域のごみを拾ったり川の清掃をしたりということで、まちの中をきれいにしようという運動をしております。今は小学校にも声をかけて、子供たちにも自主的に参加してもらったことでその結果、コミュニティの醸成、大人と子供が語り合える時間がつくれた、よかったという声もあります。また、子供にとって、ごみポイ捨てしちゃ駄目よ、捨ててしまうとこんなに大変な思いをしてごみを拾わなきゃいけないよという教育の一環にもなっているということもありまして、この運動が長いこと続けられております。

ちなみに、昨年の秋は、台風が上陸する・しないで大騒ぎになって表向きは中止になったんですが、昨年の春のみんなの町の清掃デーでは、町会・自治会は193団体、約1万人強の方が参加したという報告があります。このような他団体との連携を取って、地域のコミュニティが広がった。「町会・自治会は結構頑張っているね」という声も聞いているのがよかった点なのかなと思っております。

説明は以上です。

○地域活動推進課長 八王子市さん、ありがとうございます。ごみの問題とか地域の美化の問題は共通する課題だと思います。それが実際に効果が出たというお話でしたので、非常に参考になりました。

八王子市さんも含めていろんな地域で効果が得られているという一方で、課題がありますという話もいただいています。役割分担の明確化、調整で難しいですとか、取組の周知が必要だったというお話をいただいているケースなどもありました。

また、両団体の中で事務や経理を行う方が不在で、行政が間に入って支援する範囲が大きくなってしまったという例があったそうです。文京区さんからこのような御回答をいた

だいていますけれども、よろしければ御説明いただければと思います。

○文京区 文京区の諸留です。文京区では令和6年度より、他の地域団体と連携して事業を実施した場合、5万円の補助を2回まで受けられるといった補助制度を創設していただきました。これを活用して、多くの町会・自治会が事業を行っているところでございます。

詳細については事務局より説明させていただきます。事務局、お願いします。

○文京区 私、文京区町会連合会事務局、文京区区民課の白井と申します。よろしくお願いいたします。

こちらの課題としましては、地域活動の団体さんと連携したイベントを実施するとなりますと、当然に複数の団体の間で調整が必要となってくることかと思えます。文京区でありました事例としましては、各団体の間で実施のお話ですね。こんなイベントをやりたいというような話までは出まして、結構盛り上がって、出張所のほうにこんなイベントをやりたいんだというお話が来たんですけれども、その間お互いに実際に具体的な動き出しをしていただける方がいらっしゃらなかったところがありまして、出張所の職員が間に立ちまして、会議の日程調整や会場予約などの事前準備、開催案内の作成やその発送、広報物の作成等の対応、当日の役割分担、会計処理、あと、先ほどの文京区等への補助金の対応など、一連の裏方業務を行政のほうに団体の間に入りまして伴走支援を行いながら一つのイベントを実施した事例がございました。

ただ、文京区としましては、先ほど諸留会長からお話しさせていただいたように、地域活動団体と連携しまして、町会・自治会が事業を実施する際の、補助金制度を創出するなど一定の後押しをしているところもございしますが、個別事業全てに出張所が関わっていくことにも限界がありますので、行政がどういったところまで関わりをするのかといった課題感がある面を今課題として持っているところでございます。

以上、簡単ではありますが、報告とさせていただきます。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。区が支援事業をやることによって町会で連携の取組が広がっているという話でした。一方で、間に立って調整するところで区の御担当者の負担も増えているという話もいただいていた。そのあたりはほかの区や市の方からもいただいている意見もございました。

そのほかに、連絡調整ですとか、目的のすり合わせなどに時間を要したとか、違う取組をやっているような団体同士で連携するところで、そこを調整して一つの取組をやっていくことで非常に御苦労された、課題があったという御意見もいろいろなところからいただ

いております。

おめくりいただきまして、「連携に当たって工夫した点」もお伺いをしております。今お話ししたような課題を超えて連携を進めていくためにはいろいろな工夫が必要なのですが、日頃から顔の見える関係の構築を意識していますというお話をいただいたり、実行委員会の中に入ってもらって円滑に進むように協力してもらっている、直接出向いて依頼などを行っているみたいなこともいただいております。お願いしますと言ってすぐに連携していただけるわけではないので、そこを日頃から関係をつくりながら連携の取組を進めているというお話もいただいております。

そのほか、御回答の中で、8月、1月を除く毎月、区内の18支部の支部長が参加する連絡会、支部長会、各支部での町会長会議の開催など、様々な説明会などを通して情報に差が出ないように工夫をされているというのをいただいております。情報をちゃんと通していくことは大事な取組かと思うのですが、このあたり、板橋区さんから御回答いただいた中身なんですが、よろしければ御説明いただければと思うのですが、お願いできますでしょうか。

○板橋区 板橋区町会連合会事務局の久保田と申します。日頃からお世話になっております。

ただいま御説明いただきました工夫ということでございます。今、皆様のほうからいろいろな取組であるとか課題をよく聞かせていただきまして、私どもも18の支部、約200の町会・自治会がございます。そういったところで大きなイベント、共催事業をやる際には情報の行き渡りが必要だということを身をもって体験しております。町会の大小はあるのですが、情報につきましては大小にかかわらず同じ情報を末端まで持っていきたいということでございまして、18の支部の支部長が参加する事務事業連絡会、これは区からの依頼事項であるとか、大きな事業の協力依頼、各種団体の協力依頼があるものです。その後に支部長さんの調整会議を実施しております。さらに支部長がその情報を持って地元の町会長会議に臨んでおり、各町会への情報につきましては共有を図り、漏れのないような形で工夫をしているところでございます。

○地域活動推進課長 板橋区さん、ありがとうございました。様々な会議体を通して情報をしっかりと共有されていらっしゃるというお話でした。小林会長、何かありますか。会議とか、そうやっていろいろ区からの情報とかを皆さんに伝えていらっしゃるということですね。ありがとうございます。

恐らくほかの区でもこのような町会連合会の会議ですとか支部の会議で様々な場があると思うんです。そこでしっかりと情報を広く伝えていただく、共有することが大事なのかなというお話でした。ありがとうございました。

このほか事業を実施するに当たっての工夫とか、こちらにあるようなたくさんの団体に参加してもらっていろいろな工夫をしましたということですか、いろいろ様々な団体が入ることによって多様なイベントが企画できるということも御意見としてはいただいております。ありがとうございます。

次のページのところに御説明を移りたいと思います。7の「連携していない理由、ハードルを感じている理由」についてもお聞きしています。自分のところの組織の維持、活性化で手いっぱいとか、連携先を見つけるのがなかなか難しいという御意見などもいただいております。連携することの目的が明確になっていないため連携していないけれども、今後、目的によっては連携が必要であれば模索することになると思うというお話もいただいております。また、現状は連携して行う必要性のある事業を行っていないため、連携はしていませんというお話もいただいております。恐らく必要性ができたり、目的ができれば、例えば地域の福祉とか地域の防災などで様々な団体と連携することも取組としてあるのかなと思っています。

最後に、「今後、連携して実施してみたい取組み」についても伺っております。やはり多かったのが、若い世代の方と一緒に取組をやっていききたいとか、今の連携を継続、強化していききたい。消防や警察など様々な団体としっかりと防災に向けた取組ですとか防犯などに向けて取組をやっていききたいという話もいただいております。

こちらの中で、ライフスタイルの多様化に伴って地域活動の担い手が年々減ってきているが、祭りでは中学生ボランティアが大活躍してくれた。今後は中学生の皆さんに地域活動の担い手として参加してもらえるよう、中学校との連携を深めていくことを検討していきたいと。こちらは北区さんから御回答いただいている中身ですが、よろしければ、このあたり補足ですとか詳細をお話しいただければと思うんですけれども、お願いできますでしょうか。

○北区 北区です。北区は19町会・自治会連合会がございます。今日発表させていただくのは、豊島公園のカップまつり、特に中学生のボランティアについて発表させていただきます。少子高齢化が進む中、地域での大きな祭りなどやるにもなかなか人が集まらないということで大変苦勞をしております。特にライフスタイルも変わりまして、大きな催しを

開催するにはどうしても地域の中学生の皆さん方にボランティアとして参加していただき、お祭りを盛り上げていく。そういうために中学生の方をお願いをしたところ、気持ちよく引き受けていただけました。

特に当日は100名の生徒がボランティアに参加していただき、生徒たちは会場の設営、アトラクションの運営、会場の整理整頓、会場の清掃、駐輪場など多岐にわたり、いろいろ生徒の皆さん方に大活躍していただきました。その結果、当日参加されました皆さん、また商店街の皆様方からアンケートを取ったところ、今日のお祭りは地域一体感がますます出たということで、これからも中学生ボランティアの皆様方に活躍していただきたいという意見が大分ありました。これからも地域の大きな運動会をはじめ催物、特に防災訓練には中学生の皆様方に参加していただいて地域を盛り上げ、また、地域のために活動、活躍していただきたいと思っております。これからも中学生に地域として大いに期待をしているところです。

○地域活動推進課長 北区さん、ありがとうございます。小学校、中学校の時代に地域活動とか町会・自治会活動をやっておくと、大人になってからまた町会・自治会活動するきっかけになることは結構あるようなんですね。そういう時代に町会活動に関わってなくて、いきなり町会活動を大人になってやるというのはなかなかハードルが高いので、その意味でも、北区さんの事例のように、中学生の方に活動を手伝ってもらうとかボランティアで入ってもらうと非常に意味があるのかなと思いました。御説明、ありがとうございます。

そのほか、今連携がない連合会のほうでも、デジタル化の取組とか行事、福祉関係、親睦関係などの取組で連携を進めていきたいというお話もいただいております。ありがとうございます。

今、全体を通して何か御感想でも結構ですし、まだこういう取組がありますというお話とか御発言を希望される方があれば、どうぞ。

○江戸川区 今日せっかく東京都各地域におかれまして大変活躍されている会長さんがお集まりでございますので、皆さんにちょっとお聞きしたいんですが、子供会を活性化するためにこういうことをやっているよというような地域がありましたら。私どもの子供会というのも、やっているところはあるんですけども、やっていないところは子供会が5人になってしまったとか、何をやるにしてもできなくなっちゃったとかいう子供会がだんだん増えてきています。こういうようなことをすれば子供会活性化になるんじゃないか、う

ちのところではこういうのをやっているよという何かお話がありましたらお伺いしたいなと思います。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。子供会がうまくやれていますとか、子供会の活性化につなげるような取組がありますと。もし事例があれば御紹介いただきたいんですけれども、どこかございますか。

○北区 北区です。活性化になるかどうか分からないんですけど、うちの神谷地区では少年の主張というのをやっております。子供たちが今、世の中、世界を含めて何を考えているか。子供たちの考えている意見を聞かせていただいて、その聞かせていただいた意見を地域としていかに子供たちに反映、還元をしていくか取り組んでいます。今の子供たちは、我々大人が考えている以上に結構先々へ進んで考えていますので。だから、子供たちの生の意見を聞くことは活性化になるのではないかなと思います。

○府中市 府中市の山岡です。またドローンで申し訳ございません。今、子供の話が出たんですけれども、例を申し上げますと、ドローン教室というのをやっているんです。ああいうものに子供はものすごく興味がある。防災訓練でもちょこっとやるんですけれども、非常に興味があるので、それでは教室を開こうと。いろいろ規制がございますので、使っているのは小学校の講堂または自治会館みたいなところで、ドローンも安い、80グラムとか100グラム以下、これは誰でもできますし、免許も要らないんです。

そうすると、必ずお母さんがついてきます。いっぱいになっちゃうんですね。ですけど、お子さんには非常に印象に残ってしまして、また次に何かやったときには行こうと。お母さんのほうも興奮しちゃったりしましてね。先ほどお話ししましたがけれども、ドローンというのはやっぱり若い人でないとできない。手を挙げて、かなりの人がドローンをやってみたいというのを今子供のほうに向けていますので、ちょっとすればまた育ってくるんじゃないか。横展開もできるのではないかと思いますので、参考になるか分かりませんが、やっていることです。

○葛飾区 葛飾の秋本と申します。

葛飾区でも子供会がどんどん減少しています。PTAの役員もなり手がなくて、今大変ですけれども、町会と子供会がタイアップし、当初から子供会に対して町会から補助金を出したりしています。それから、今、学校の個人情報の取り扱いが厳しくなり、入学時の情報や資料を子供会に提供しないんですね。ですから、本当は町会でも入学前に子供会に何人入ったか確認し、お祝いの靴を渡したりしているんですけれども、情報が入ってこな

いので、子供会が困っています。町会の回覧板で、子供会の行事やイベントなどについて情報周知しています。

これから夏休みになります。子供会は子供会で、老人会は老人会で行事を行います、夏休みの始まりと終わりにラジオ体操を実施し、参加者に参加賞みたいなものを準備しようと考えています。そういう形で子供会の活動、取組を促し、子供会の活性化を図るとともに、子供会の役員を卒業した後、町会役員に引き込みたいのもありますので、子供会を町会としてもできる限り支援しています。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。関口会長、大丈夫ですか。いろいろな話が出ましたけれども。

○江戸川区 町会・自治会の活動に対しては現在の小池知事が大変厚い支援をされているということで、大変感謝しているんですけども、例えば、我々、10ぐらいの子供会が合同で何かをやるときには東京都からの助成金等が考えられるのかどうか。例えば、町会の場合はマンションと合同で防災訓練をやりと防災の助成金が出ますよね、防災訓練や何か。そんなので、子供会が大勢集まって、300とか500人ぐらいの子供会が集まってやる大きなイベントに対して東京都が、ちゃんとした申請があれば助成金を考えてもいいというようなあれがあるのかどうか。子供会の人、何かまとまってやるというと、大勢でやると300人から500人ぐらい集まる。そうするとやはり相当経費がかかるので、もちろん町会は町会で子供会に対しての助成金を出していますけれども、そういう場合、東京都からの助成金というのが考えてもらえるのかどうか。申し訳ないですが、今返事は要らないんですけども、検討していただければ。

○地域活動推進課長 すみません。本当に縦割りだとお叱りを受けるのを重々承知で言いますと、残念ながら子供会に関して詳細がよく分かっていないので、まさに今、小池知事自体も子供の未来というか、お子さんに対する様々な支援、いろいろな取組をやっている中で、その中で、地域で子供会という活動をされていらっしゃるのに対してどんな支援ができるのか。今既にあるのかということも、子供の部署にも確認してみたいと思います。なかなか活動が難しい中で後押ししてほしいという御要望だと思いますので、お預かりして確認したいと思います。

○府中市 全部は知らないのですけども、地域の底力では、子供の活動に対して自治会がちゃんと見れば出るというような項目がございますよ。

○地域活動推進課長 そうですね。ありがとうございます。本当は私が言わなければいけ

なかったところですが、底力では、子供会と連携いただけると30万円という補助が引き上がる取組もあるんです。その取組をやりつつも、子供会に対しても何か支援をという話だと思いますので、両方併せてしっかりと。町会と一緒にやっていただけるのであれば我々の支援を使っていただいても大丈夫です。あと、子供会にというのであればまた別の支援というお話もあると思いますので、いろいろな角度で支援は、町会を通じてでもそうですし、子供会に対してもそうですし、何ができるのか、担当と確認をさせていただければと思います。ありがとうございました。

お時間が結構迫ってきてしまったんです。すみません。私の独断で恐縮なんですけれども、今回、新島村から前田会長がいらっしゃっているのも、会長、よろしければ、全体を聞いて、連携はなかなか難しいなどの御感想でも結構なので、何か御発言いただいてもいいですか。なかなかこういう機会でないとお話しできないと思うので。

○新島村 新島の前田です。今回初めて会長になりまして、今日こうやって意見を聞いたんですけれども、島とは結構違いますね。聞くばかりで今日は頭がいっぱいです。町会はほとんど島の何でもやらなきゃならないので。だから、あれをやれ、これをやれ、全部をほとんどやるという感じなんです。消防団を上がると町会の人になっておるし。だから、連携はずっと連携です。だから、その辺は分からないので、聞いたことばかりで、ちょっと戸惑いがありました。そういうことです。

○地域活動推進課長 ありがとうございました。会長がまさにおっしゃったとおり、今後、恐らく皆、消防団のメンバーが町会と一緒にというケースはこれからまた増えてくるんじゃないかなと思うので、その意味で、今回いろいろな地域の連携の事例を御説明させていただきましたけれども、どの地域でも、町会の活動ですとか、子供会もそうですし、様々な地域の活動を続けていくのに非常に御苦労されていらっしゃる。その解決策の一つが、地域のその団体と連携していくというお話だったのかなと思っています。アンケートですとか、この場でもいろいろな御発言をいただきました。ありがとうございました。

事務局からの説明は以上となります。

○座長 皆様、たくさんの御意見をいただきまして、実は時間がもう20分オーバーしている状況なんです。今日はかなり時間に余裕があるということで、都町連の皆様には申し訳ないですけれども、悠々とオーバーさせていただきました。

このあたりで本日のまとめをさせていただきます。たくさん御意見を頂戴した中で、まず、連携している団体、組織ということで数多くのものを紹介させていただいております。

たが、中に新宿区さんからございました再開発のエリアマネジメント組織という、ちょっとユニークな例も御紹介いただきました。

それから、連携して行っている取組については本当にたくさんの事例を紹介していただきました。加入率向上にもつながる転入時、転入してきた人に、不動産業界や宅建業界の方と組んで町会・自治会のことを紹介する例ですとか、イベントの中で地域の大学医学部等と連携して健康づくりをやっていくということで町会・自治会の活動をアピールされている例。それから、デジタルスタンプラリーですとか、ごきんじょカード、絆カード等を使いながら地域の魅力を発揮していくことを取り組まれているということです。特に昭島市さんから、継続的にやっていくんだ、他団体と一緒に地域の魅力を発見していくんだという御発言をいただきました。これこそまさに地域づくりの要諦だと思っております、非常にいいお言葉をいただいたと思っております。

それから、府中市さんからドローンの例を紹介していただきまして、新しいものを投入するとやはり若い人の関心を非常に集めるといういい例だったのではないかと思います。さらに、それによって消防とも連携されているということで、新たな他団体との連携の中での地域防災力向上につながるのではないかと考えて聞かせていただきました。

また、江戸川区さんのように、見えない町会組織の努力が地域の安全を高めるんだということを伝えていく努力をされているということで、これも非常にいいことだなと思っております。

そして、連携することによるよい点ということで、八王子市さんのごみゼロ運動の話をお聞かせいただきましたが、これがコミュニティ、地域づくりにつながっているという非常によい例だと思います。町会・自治会だけではなくて、市内のいろいろな団体、そして市役所も巻き込んだ運動をされているということで、すばらしいなと思った次第でございます。

一方で、連携によっての問題点もございまして、複数の団体が関係してくるとどうしても調整が出てくるということで、間に行政の方が入って御苦労されていることもあると伺いました。そういった形での関わりということで、町会・自治会の皆様の活動に対しての行政の関わり方も絶えず考えていかなければいけない課題であろうと思っております。

そして、様々な課題がある中で工夫をされている点ということで、板橋区さんから御紹介いただきましたが、情報をちゃんと伝えていくために、支部長さんですとかいろいろな役員の方も集まっていた上での会議をきちんと行って、そこで情報を伝えるという

努力をされているということも伺えたところでございます。

そして、今後の取組ということで、北区さんがおっしゃっていた中学校との連携、これも素晴らしいと思います。

最後に、子供会との連携ということで、実は私の地元も子供会がどんどん解散しているという状態になっているんですけれども、今お聞かせいただきました北区さんの少年の主張というのはすごく面白いなと思いました。それから、府中市さんのドローンを使って子供さんの興味を起こしていくこと。そして、葛飾区さんの子供会への補助もなかなか素晴らしいと思ったところでございます。

今申しましたが、江戸川区さんからいただいた子供会の補助については、こちらも調べさせていただきます。

こういった様々な課題がありながら、町会・自治会の皆様がいろいろな地域の組織と連携をして活動されていること。これが今後の町会・自治会の施策を進めていく上で非常に役立つと思っております。引き続き、いろいろな事例を御紹介いただき、また私どもも協力させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ちょっと時間をオーバーしていますので、ここで最後となりますが、吉成副座長に本日の検討会の感想をお願いしたいと思います。

○副座長 座ったままで、すみません。副座長を務めます東京都及び中野区町会連合会会長の吉成でございます。

今日は、地域活動に関する検討会に御参加をいただいて、他の地域の団体や組織との連携について、お話を皆さんから伺う事が出来ました。本当にありがとうございました。

今、部長さんがお話ししたとおり、私が考えられないようなドローンの話とかいろいろ出てきました。見えないところで町会というものはみんなの安心安全を守っているんだというお話や、日頃からPTAや商店街との交流し、中学生、若者等をはじめ多様な世代の参加でイベントの企画をするなど、事例がたくさん出てきました。様々な工夫を凝らしながら地域が一体となって課題に対して取り組まれていると再認識しました。本当に皆様の日々の御尽力に感謝いたします。

こうして本日紹介されました事例、アンケート結果は、ほかの地域の団体や組織との連携を行っていくためのヒントになると考えております。これからの活動の参考にしていただけだと思います。

本日はどうもお疲れさまでした。

○座長 吉成副座長、ありがとうございました。

それでは、本日の議事は以上といたします。これをもちまして、令和7年度第1回東京都地域活動に関する検討会を閉会いたします。皆様、御協力、どうもありがとうございました。

次回につきましては、また別途お知らせいたしますので、開催時には御協力のほどよろしくお願いします。

本日はどうもありがとうございました。

午後2時58分閉会